

いいぶ

Iryohojin Iwakuni Byoin



携帯サイトQRコード



🌸 新人事 🌸

病棟部門 副師長
山本 恵美子



頼りにならない副師長ですが、師長さんはじめ主任さん方々にサポートしていただき、切磋琢磨して、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いします。

外来 副主任
山代屋 由季



安心してスムーズに診察を受けていただけるよう笑顔で丁寧な声かけを忘れず努めていきたいと思っております。

産科 主任
上河 幸子



岩国市の産科医療を守りたいとする院長の下、産科スタッフはよりよい看護が提供できるように日々頑張っています。これからも、入院して来られた方々が安心して過ごせるような病棟作りを目指すとともに、働きやすい職場となるように微力ながら努力していきたいと思っております。よろしくお願いします。



麻酔・救急医療 主任
徳永 数子



スタッフ一丸となったチームワークのもと、迅速な対応と的確な手技にてよりよい看護提供を心がけたいと思っております。

麻酔・救急医療 副主任
栃谷 スズエ



未熟者ですが、先生をはじめ先輩方より御指導を仰ぎ日々精進していきたいと思っております。皆さん、ご協力を宜しく申し上げます。

病棟 主任
後 順子



岩国病院では20年以上勤めています。(年齢がバレてしまうのであまり言いたくないのですが・・・)今までは内科一般病棟での勤務が長く療養病棟での仕事は久しぶりとなります。そんな皆様のお役に立つことができたかと思っています。なので何かお気づきがあればどうぞ気軽に声をかけてくださいね♪ 宜しくお願いいたします。

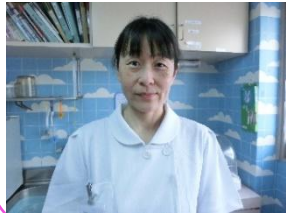
医事課 副主任
竹内 みどり



頑張ります。よろしくお願いします。

🌸 2名新入職者 🌸

沐浴
長田 典子



助産師を辞めて15年ぶりに復帰しました。お菓子・パン・料理の講師もしています。クッキングの質問ならいつでもどうぞ♪ 宜しくお願いします。

外来クラーク
中村 育子



昨年の11月から、アルバイトとして週2回の勤務でしたが、4月から正式に正社員として働かせて頂くことになりました。まだまだ仕事はわかりませんが、早く一人前になれるように頑張りますので、宜しくお願いします。



新しくスタートしました!



皆様、こんにちは。

岩国病院訪問看護課は、3人の看護師で業務を行っています。

私達3人は、ご自宅での生活がより安心して送られるよう、

優しい看護を提供させて頂きご家族により近い存在でありたいと思いながら日々、頑張っています。今後ともよろしくお願いたします。

訪問看護課 0827-28-5551

管理者 金原 秋美

看護師 二木 弘子

看護師 河口 尚子



食物アレルギー

中川 誠医師

特定の食べ物が原因で皮膚や呼吸器などにアレルギー反応が出ることを「食物アレルギー」といいます。

原因は、主に食物に含まれるたんぱく質です。アレルギーの原因となるたんぱく質は消化されにくく、小腸から一部未消化のまま吸収され、血管を通過して全身に運ばれ、さまざまなアレルギー症状をおこします。

どの食べ物で反応を引き起こすか、どれくらいの量で反応が出るかは人によって違い、症状もさまざまです。

ほとんどの場合が、食べてから2時間くらいの間に何らかの症状が現れますが、なかには1~2日後に症状が現れたり、食後に激しい運動を行うことで反応が出る場合もあります。

食物アレルギーの原因物質を「アレルゲン」といいます。日常よく食べるものでは卵、牛乳、小麦があり、3大アレルゲンといわれ、乳幼児期の原因として多くみられます。また、アレルギーを起こす力が強いものとしてえび・かになど甲殻類、そば、ピーナッツなどがあり、こちらは学童~成人期の原因として多くみられます。

症状としては頭痛、じんま疹、目の充血、腹痛、下痢、嘔吐、くしゃみ、鼻水、呼吸困難など多岐にわたります。

最も注意しないといけないものとして、「アナフィラキシーショック」があります。呼吸器や消化器など複数の臓器に強く急激にあらわれ、さらに血圧低下や意識障害を伴う場合は、生命の危険が伴います。この場合、すぐ病院へ行って、適切な処置をする必要があります。

治療の基本は、アレルゲンを避けることですが、いつまでも避け続けるのではなく、ゆくゆくは「食べられるようになること」が目標です。最近では必要最小限の除去を目指した食事療法が求められています。食事療法は、医師の診断に基づき栄養面と安全面と生活の質に配慮しながら行う必要があります。

近年、食物アレルギーを成人になってから発症する人が増えています。原因となる食品の傾向は乳幼児と異なり、野菜や果物が多いといわれています。

発症の詳しいメカニズムは解明されておらず、治療法は確立していませんが、患者さんの体質に応じて症状を改善する動きが大規模病院を中心に始まっていますので、早期に専門医を受診することが必要です。



パーキンソン病の講演会がありました

4月23日(土)に第5回パーキンソン病の講演・相談会がシンフォニア岩国で開催されました。

この会は、当院で毎週神経内科の診察をしてくださる久留米大学名誉教授・庄司 紘史先生が中心となって開催されており、当院からも内科病棟看護師の一藤紀子・重本美穂が「家族性パーキンソン病と家族で出来る取り組み」という題で、家族性パーキンソン病と、パーキンソン病が発症した場合の対応について発表しました。

庄司 紘史先生のパーキンソン病候についての講演に続き、広島西医療センターの牧野恭子先生による「パーキンソン病の治療」、北九州市総合療育センター精神科部長の下村泰斗先生によるピアノ演奏も交えた音楽療法、各講師による相談会等、とても充実した内容でした。

ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

